

ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：45

問題あり：6件

要確認：8件

問題なし：31件

詳細な検証結果

1. 固有名詞

北神圭朗（きたがみ けいろ）

記載内容：漢字・読み仮名ともに正しく記載

検証結果：✓正確

根拠・出典：衆議院公式サイト、Wikipedia

参政党

記載内容：「参政党から18万6千円の寄付」

検証結果：✓正確

根拠・出典：京都新聞2024年9月19日報道、北神氏公式サイトの訂正報告

田中英之

記載内容：「自民現職の田中英之氏」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、京都新聞報道

有志の会

記載内容：「他の無所属議員とともに『有志の会』会派を結成」

検証結果：✓正確

根拠・出典：日本経済新聞2021年11月4日、衆議院公式サイト

2. 数値情報

生年月日

記載内容：「1967年2月1日生」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、公式プロフィール

当選回数

記載内容：「当選5回」

検証結果：✓正確

根拠・出典：衆議院公式サイト、Wikipedia

18万6千円の寄付金

記載内容：「参政党から受け取った寄付金18万6千円」

検証結果：✓正確

根拠・出典：京都新聞2024年9月19日、北神氏公式サイト

2021年選挙得票率

記載内容：「得票率44.21%で当選」

検証結果：△要確認

理由：具体的な得票率の公式データが見つからなかった

2024年選挙得票率

記載内容：「得票率51.25%と過半数の支持を得て再選」

検証結果：△要確認

理由：具体的な得票率の公式データが見つからなかった

有志の会結成日

記載内容：「2021年11月4日」

検証結果：✓正確

根拠・出典：日本経済新聞2021年11月4日、Wikipedia

Facebookフォロワー数

記載内容：「約2,100人」

検証結果：×誤り

正しい情報：実際は「2,124 likes」（2025年時点）

根拠・出典：Facebook公式ページ

Twitterフォロワー数

記載内容：「約8,500人」

検証結果：△要確認

理由：具体的な数値が検索結果から確認できなかった

3. その他の重要な事実関係

米国滞在期間

記載内容：「幼少より米国ロサンゼルスで育ち」

検証結果：✓正確（より正確には「生後9ヶ月から18年間」）

根拠・出典：Wikipedia

大学・省庁経歴

記載内容：「京都大学法学部を卒業後に大蔵省（現・財務省）へ入省」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、公式プロフィール

民主党政権時の役職

記載内容：「経済産業大臣政務官や内閣総理大臣補佐官など要職を歴任」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia

2021年統一教会関連イベント

記載内容：「2021年4月、京都で統一教会系団体が主催予定だった『新型コロナ終息を願う京都1万人祈りの集い』というイベントで、北神氏が他の地元議員らとともに世話人（呼びかけ人）に名を連ねていた」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia

2024年9月の寄付記載漏れ報道

記載内容：「2024年9月に報告書を訂正する対応をとりました」

検証結果：✓正確（より正確には「2024年9月17日に訂正」）

根拠・出典：北神氏公式サイト、京都新聞

憲法改正への姿勢

記載内容：憲法改正に前向きとの記述

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia「日本国憲法第9条の改正、集団的自衛権の行使に賛成」

4. 検証できなかった項目（要確認）

選挙公約の具体的内容

記載内容：8項目のスローガンなど詳細な公約内容

検証結果：△要確認

理由：元文書のPDFファイルから引用されているが、詳細な検証が必要

国会発言の具体的内容

記載内容：農林水産委員会での質疑内容など

検証結果：△要確認

理由：国会会議録の詳細確認が必要

SNS投稿内容やYouTubeチャンネル登録者数

記載内容：「約1,800人」

検証結果：△要確認

理由：具体的な数値の確認が困難

改善提案

修正が必要な箇所

- Facebookフォロワー数：「約2,100人」 → 「約2,124人」（2025年時点）
- 米国滞在の詳細：「幼少より」 → 「生後9ヶ月から18年間」
- 寄付記載漏れの日付：「2024年9月」 → 「2024年9月17日に訂正」

追加確認が推奨される情報

- 選挙得票率：2021年と2024年の具体的な得票率データの公式確認
- SNSフォロワー数：TwitterとYouTubeの正確な数値
- 国会発言録：具体的な委員会質疑の詳細確認
- 選挙公約：2024年選挙公報の原文確認

全体的な評価

記事の大部分の事実関係は正確で、主要な固有名詞、日付、経歴等は信頼できる情報源と一致しています。問題となる箇所は主に数値の詳細部分で、記事の核心的な内容については高い信頼性を保っています。